

令和7年10月8日

『イメージのくない>世界に生きる アファンタジア』を出版

このたび、北大路書房より福島大学の高橋純一教授をはじめとする執筆陣が手掛けた『イメージのくない>世界に生きる アファンタジア』が2025年9月に出版されました。編著者として、杉村伸一郎教授（広島大学）、行場次朗名誉教授（東北大学）、さらにコラム執筆者として様々な分野にわたる研究者が名を連ねています。本書は、アファンタジア（イメージが浮かばない特質）の人たちの実際の語りを通して、イメージ体験さらには認知の多様性に迫る内容となっています。

著者らは科学研究費を受けるなどして、これまでアファンタジアの出現率やサブタイプ、認知特性、脳機能特性、日常生活におけるエピソードなどについて調査・実験研究を行ってきました。2021年には海外でのアファンタジアの人たちのエピソードに関する翻訳本『アファンタジア：イメージのない世界で生きる（北大路書房）』を出版しました。本書は、日本でのアファンタジアに関する姉妹書となります。

■本書の内容とその意義

本書は、アファンタジアの人たち総勢13名が参加し、各回のトピックについて各自が過去を振り返ってエピソードを話してもらった内容を収録したものになります。

1. アファンタジア研究の経緯と現状

- アファンタジア研究のはじまり
- アファンタジア研究のこれまで
- アファンタジア研究のこれから

2. アファンタジアの人たちのエピソード

- アファンタジアの気づき
- アファンタジア仲間の存在
- アファンタジアに気づいてから—自己の回想
- アファンタジアに気づいてから—将来の展望
- 補償の戦略
- 選択の分岐点
- 周囲の理解
- まとめ



3. アファンタジアとファンタジアの対話

アファンタジアを知ってどう思った？

「イメージが見える」とはどんな感じ？

アファンタジアとファンタジアとでは、記憶の仕方が違う？

「イメージを使わないとむずかしそう」と思うことは？

妄想はするの？

アファンタジアの人たちは「今を生きる」存在？

イメージしなくても、読書は夢中になれる？

対談を終えて

4. アファンタジアの人たちのライフストーリー

Kさん—アファンタジアな私の発見

Iさん—想像力は、ちゃんとあります

Jさん—視覚的な想像がない場合の暮らしぶり

Bさん—もしかして世界で初アファンタジア

(イメージ障害)に気がついた？

四名のライフストーリーを振り返って



“みなさんは、「バナナを思い浮かべてください」と言われたら、思い浮かべられるだろうか？（本書「はじめに」i ページ）” 多くの人は頭のなかに視覚的なバナナを思い浮かべることとします（その色や形の鮮やかさには、大きな個人差もあります）。しかし、なかにはそのような視覚的なバナナのイメージを思い浮かべない方もいます。これを「アファンタジア (aphantasia)」と呼んでおり、「(視) 知覚は機能しているが、それらの感覚イメージが思い浮かばない特質」として、2015年に Zeman らの論文で提唱されました。著者らの調査 (Takahashi et al., 2023) でも明らかにされましたが、一般的には4%程度の方がアファンタジアに該当すると言われています。

これまで、アファンタジアに関する心理学的・脳科学的な調査・実験研究が行われてきましたが、それらの研究だけでは限界もあります。それは、イメージは主観的体験であり、その人のイメージの状態は直接的に見ることができないという問題です。また、見えないものを推測する際にはどうしても自分の主観が入ってしまいます。その状態では、アファンタジアの人たちの主観的体験を間違えて推測してしまう事態も起こりかねません。そこで、本書はアファンタジアの人たちの主観的体験(当事者性)を重視し、当事者から語ってもらうという手法を採用しました。この点において、本書は著者と当事者との協働であるとも考えられ、これは本書の特徴的な点と言えます。

本書が、みなさまにとって有益な参考となり、社会におけるアファンタジア理解を促すこと、そして認知的多様性の観点からインクルーシブな社会を考えるきっかけとなれば幸いです。

(お問い合わせ先)

人間発達文化学類 教授 高橋 純一

電話：024-548-8171

メール：j-takahashi@adb.fukushima-u.ac.jp